



さくら並木だより

第3号

発行：相模原市
平成23年
6月

第3回検討会を開催いたしました。

市役所周辺の桜並木の維持管理の在り方について、学識経験者や市民の皆様からご意見を伺う検討会の第3回を3月23日(水)に開催いたしました。今回は、市道相模原横山に引き続き実施しました市道市役所前通の桜並木の診断結果の報告と、桜の寿命と腐朽病害などについて、意見交換を行いました。

市道市役所前通の街路樹診断結果

相模原市では、昨年の12月からこの3月にかけて市道市役所前通の桜313本について、樹木医による点検・外観診断を行いました。そのうち、内部に腐朽があると思われる47本を抽出し、精密診断を実施いたしました。

その最終結果は右の表のとおりです。また、点検・外観診断と精密診断の判定基準は、次のとおりです。

○判定結果

健全度	本数	比率
健全	97本	31%
健全に近い	134本	43%
おおむね健全	42本	13%
不健全に近い	31本	10%
不健全	7本	2%
きわめて不健全	2本	1%
合計	313本	100%

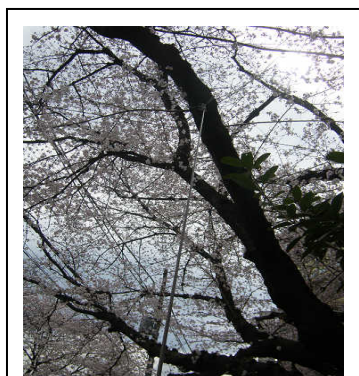
○樹木健全度判定基準表（簡略化）（注）空洞率＝腐朽率

点検・外観診断	精密診断・空洞率
健全度：健全 樹勢や材質腐朽などの被害について、おおむね異常がないとされたもの。	検出されない
健全度：健全に近い 樹勢や材質腐朽などに被害がみられるが、その程度が軽微、局所的な処置、あるいは当面の間処置が必要とされないもの。	10%未満
健全度：おおむね健全 樹勢や材質腐朽などの被害の進行に注意する必要があるもの。被害程度は軽微だが、局所的な処置、あるいは当面の間処置が必要なもの。	10～25%未満
健全度：不健全に近い 樹勢や材質腐朽などの被害については処置を施さない限り回復の確率が低いもの。	25～40%未満
健全度：不健全 樹勢・樹形が著しく不健全で、今後の回復がまったく望めないもの。倒木や幹折れ可能性が高いもの。	40～60%未満
健全度：きわめて不健全 樹勢・樹形が極めて不健全で、危険なもの。近い将来、倒木や幹折れが起こる可能性が極めて高いもの。	60～70%以上

判定の結果、倒木の恐れがある街路樹は9本あり、そのうち2本については極めて倒木の可能性が高いことが分かりました。この9本については、今後、伐採してまいります。特に、2本については、緊急処置として支線ワイヤーや丸太支柱で補強を実施いたしました。また、枯れ枝やキノコの着生がみられる枝については、落下の可能性もあるため、緊急に剪定作業を実施いたしました。



丸太支柱



支線ワイヤー

倒木の恐れがある街路樹一覧（次の街路樹には、伐採する旨の張り紙をしてあります。）

樹木番号	特 記 事 項	総 合 判 定
1022	根元にコフキタケとベッコウタケが多数着生しています。幹の分岐部に入皮があります。露出根では樹皮枯死・樹皮欠損が多数あります。	「不健全」
1067	大枝付け根に入皮があります。車道側の根元に打音異常があります。前回に確認のコフキタケは未確認でした。	「不健全」
1094	根元のほぼ全周にベッコウタケが着生しています。露出根にはキノコが着生や樹皮欠損が見られます。コスカシバによる食害があります。	「不健全」
1095	根元にはベッコウタケが多数着生しています。	「きわめて不健全」
1103	根元にコフキタケとベッコウタケの着生がある。根が縁石に乗り上げていることも見られます。幹の分岐部に入皮が見られます。車道側に直径 50 cm の剪定痕ありますが、腐朽は少ないです。	「不健全」
1169	幹にコフキタケが、根元にはベッコウタケが多数見られます。露出根には腐朽があります。	「不健全」
1209	側道上の大枝（一番太い枝）に、車接触による樹皮欠損があります。2本の大枝付け根に空洞や腐朽が見られます。根元にベッコウタケが多数見られます。	「きわめて不健全」
1307	根元に空洞があり、コフキタケの着生が見られます。コスカシバによる食害があります。	「不健全」
1311	大枝剪定痕の腐朽部にカワラタケがあります。幹の分岐部に打音異常があります。	「不健全」

ソメイヨシノの寿命について検討会で意見交換を行いました。

今回、ソメイヨシノの寿命について意見交換を行いました。すべてのソメイヨシノは、元をたどれば同じ1本のソメイヨシノ（親木）につながり、その親木のクローンともいえます。

ソメイヨシノは、若いうちは接ぎ木の台木の方で成長しますが、自根を出しますので、台木は徐々に枯れていきます。台木とソメイヨシノがつながっていた場所が根株で、樹木にとっては「要」となるところです。枯れた台木から腐朽菌が侵入するため、「根株芯材腐朽病」はソメイヨシノにとって致命傷となる持病で、生まれながらに短命が運命付けられています。

中心から外側に向かって腐朽が広がると支持力が弱くなり、ソメイヨシノは樹体を補強するため、成長点でもある樹体を作る機能を持つ形成層を移動させ、外側に肥大成長します。腐朽の進行と形成層の移動どちらのスピードが勝るかの競争となります。環境にもよりますが、40年～60年経つと、ソメイヨシノのほとんどが根株内部に大きな腐朽をもった状態となり、腐朽と形成層の戦いは、このころに決着していきます。

